

【議題名】

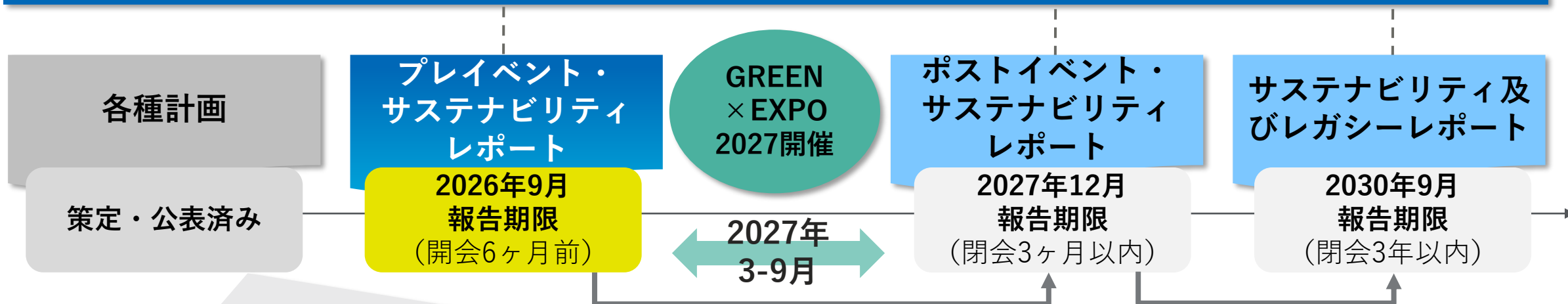
プレイベント・サステナビリティレポートの作成

2027年国際園芸博覧会協会

1. プレイベント・サステナビリティレポート等の報告時期と大方針

意義：	博覧会のレガシーとして、知識、ベストプラクティス、ケーススタディおよび教訓を継承
目的：	博覧会開催にあたり、建設工事及び準備段階の経験を共有し、直面した課題や問題とそれらへの対処法を明確にし、成果を記録する。また、大規模イベントの管理への理解を深めるための基礎資料とする。
規則：	開会6ヶ月前の提出かつAIPHの要求事項を満たす必要がある。

サステナビリティレポート群



【公表済み資料】

- サステナビリティ戦略、サステナビリティ実施計画
- サステナビリティ教育計画、
- サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント（C&E）計画

*以降のページでは、「プレイベント・サスレポ」と略す

2. プレイベント・サスレポのAIPH提出・公表に向けたスケジュール

2026年9月のAIPH提出に向けて、今年度は第5回有識者委員会での「全体コンセプト・目次案」に対する協議、第6回有識者委員会では「本文案」に対する協議をいただきたい

	2025年度				2026年度			
	2025年 4-6月	7-9月	10-12月	2026年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2027年 1-3月
有識者 委員会		★ 9/9 第5回		★ 1/13 第6回		★ 未定 第7回		★ 未定 第8回
プレイベント・ サスレポ関連	全体コンセプト・ 目次案検討			本文案作成		最終化 ※進捗の反映中心	★ 9月： AIPH提出（公表）	
					英訳			

3. プレイベント・サスレポの方向性①

プレイベント・サスレポの冒頭では、レポートの位置づけ、GREEN×EXPOのテーマ・サブテーマとサステナビリティの関連性、これまでのサステナビリティの歩みについて記載

AIPH要求事項*	目次案	記載の方向性
—	0.プレイベント・サステナビリティ レポートの位置づけ	本レポートの趣旨、作成目的を記載
	1.はじめに 1.1 GREEN×EXPO の サステナビリティの意義、 ビジョン&ミッション	「基本計画」および「サステナビリティ戦略」記載の内容を参考に、テーマ・サブテーマとサステナビリティの関連性を記載
	1.2 GREEN×EXPO の これまでの サステナビリティの歩み	「サステナビリティ実施計画」に記載のこれまでのサステナビリティに対する取組概要を踏襲し、以下取組等を追記 ・ サステナビリティ教育計画、C&E計画、資源循環の考え方策定 ・ 協会内でのサステナビリティ関連研修等の推進

3. プレイベント・サスレポの方向性②

サステナビリティ関連の重要なトピックとして、①脱炭素、②資源循環、③生態系・環境、④人権・D&I・アクセシビリティの4項目における取組内容を記載

AIPH要求事項		目次案		記載の方向性															
1. 持続可能性の優先事項と目標		2. 目標と目的	2.1 GREEN×EXPO 2027としての持続可能性優先事項と目標	■ サステナビリティ関連の重要なトピックとして、①脱炭素、②資源循環、③生態系・環境、④人権・D&I・アクセシビリティそれぞれの取組内容を記載															
2. 目的			2.2 主要な目的と評価	■ AIPH要求事項12項目について、目的は「サステナビリティ実施計画」より引用し、評価を追記															
				<table><tr><th colspan="2">AIPH要求事項12項目</th></tr><tr><td>①デザイン</td><td>⑦水</td></tr><tr><td>②請負業者と建設</td><td>⑧汚染</td></tr><tr><td>③国際的な参加者</td><td>⑨炭素</td></tr><tr><td>④交通</td><td>⑩持続可能なイベント運営と管理</td></tr><tr><td>⑤生物多様性</td><td>⑪廃棄物と解体</td></tr><tr><td>⑥エネルギー</td><td>⑫レガシー</td></tr></table>		AIPH要求事項12項目		①デザイン	⑦水	②請負業者と建設	⑧汚染	③国際的な参加者	⑨炭素	④交通	⑩持続可能なイベント運営と管理	⑤生物多様性	⑪廃棄物と解体	⑥エネルギー	⑫レガシー
AIPH要求事項12項目																			
①デザイン	⑦水																		
②請負業者と建設	⑧汚染																		
③国際的な参加者	⑨炭素																		
④交通	⑩持続可能なイベント運営と管理																		
⑤生物多様性	⑪廃棄物と解体																		
⑥エネルギー	⑫レガシー																		

3. プレイベント・サスレポの方向性③

公表資料をもとに記載し、実施内容に対する振り返りや評価について追記する方針

AIPH要求事項	目次案	記載の方向性
3. 開発され、 実施された政策	3. 持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献	■ 2023年度公表の「サステナビリティ戦略」より目標、ターゲットと方法の記載内容を引用 ■ 2025年度時点での進捗状況を反映
4. コミュニケー ションとエンゲ ージメント	4. 持続可能なコミュニケーショ ン・エンゲージメント計画	■ 2024年度公表の「サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画」より目的、対象者、アクションと評価を引用 ■ 2025年度時点での進捗状況を反映

3. プレイメント・サスレポの方向性④

公表資料や既存資料をもとに記載する方針

AIPH要求事項	目次案	記載の方向性
5. 教育	5. 持続可能な教育計画	■ 2024年度公表の「サステナビリティ教育計画」より目的、対象者、アクションと評価を引用 ■ 2025年度時点での進捗状況を反映
6. 一般 (受賞・認証)	6. ISO20121 に則した持続可能性マネジメントシステム	■ ESMS研修資料より、ESMS構築に関する概要や取組の必要性を記載 ■ ESMSマニュアルより、GREEN×EXPO 2027におけるESMS運用方針の概観を記載

4. 持続可能性優先事項①脱炭素

掲載コンテンツ（初期案）

■ 再生可能エネルギーの活用と脱炭素化の推進

具体例

- ・ 再生可能エネルギー100%の電力調達【検討中】
- ・ Scope1,2への対応(カーボンオフセット等)【検討中】

■ 温室効果ガス削減対策

具体例

- ・ 省エネ設備等の導入【検討中】
- ・ 電力使用量の見える化やエネルギー削減対策【検討中】



「コンセプトブック」では、カーボンニュートラルに向けたグリーンTRANSフォーメーション(GX)の推進や、自然と世界の多様性に関するコンテンツ提供を発信

4. 持続可能性優先事項②資源循環

掲載コンテンツ（初期案）

■ 「資源循環の考え方」に沿った対応の推進状況

➤ 素材使用方針、廃棄物の3Rと分別、リサイクル率目標値

➤ 個別の資源循環対策

具体例

- GREENサーキュラー建築【実施中】
- 食品ロスの削減【検討中】
- 植物残渣の利活用【検討中】

GREEN×EXPO 2027における仮設建築物は、環境に配慮された「GREEN サーキュラー建築」とする。

風景に呼応する建築

- ・ 土質の特性、流域、地形・気候・植生などの自然環境条件や、展示・出展・観覧の場と一体となった配置や向きとし、周囲に溶け込む規模、高さとする。
- ・ 光、風、水、土の自然エネルギーを積極的に取り込むため、屋根や開口部、断熱等を工夫する。
- ・ 屋外空間（植物）の一日の受光や季節の移り変わりを感じ、心地よい屋外に開かれた施設とする。

GREEN サーキュラー建築

植物とともにある建築

- ・ 素材、エネルギーとしての植物、空気中の酸素を生み出す植物の価値や知性を五感で感じ、季節感（Wind-bowing）を創りだすことをデザインする。
- ・ 日本の地域風土の中で、長年をわたり植物と密接な結び付きと関わりを持ってきた建築と植物の関係性を再考し、現代の技術を活用し、人と植物と建築の新しい関係を構築する。

巡りつなぐ建築

- ・ 日常のメンテナンスや将来の改修が容易であるとともに、廃棄物を予め見込むなど、周辺環境や機能に応じて構築していく建築とする。
- ・ 環境に適した素材を選び、廃棄物としない。特に国産木材等は、構造・仕上材やファニチャー、エネルギー等として使い回すことにより、森林資源の循環に寄与する。

ネイチャーベースデザインによる会場とGREEN サーキュラー建築

- ・ 日本の植物資源と文化を活かすとともに、博覧会後の花と緑にあふれたグリーン社会を見据えた魅力的な会場を提供する。
- ・ 会場内の仮設建築は、循環型（リユース、リサイクル）とし、環境負荷の低減、素材の有効活用が図られた「GREEN サーキュラー建築」とする。
- ・ 建材には、国産木材の積極的な活用を図る。
- ・ 先行して工場で部材を製作、現場での建設作業低減を図る。これにより、労務負荷の低減、工期短縮を図ることができる。

出典：博覧会協会「サステナビリティーに関する取組み：サステナビリティー戦略」

6 【開催中】廃棄物の分別区分（案）

廃棄物の種類	分別区分	協会・出展者	会場者
ごみ	燃やすごみ	●	●
	公式参加館の展示物等 ^{※1}	●	—
紙	紙ボール	●	●
	新聞	●	●
	雑誌（冊子、パンフ等）	●	●
	OA用紙	●	●
	ミックスペーパー	●	●
	紙パック・紙コップ（緑色あり含む）	●	●
食品	機密文書	●	—
	食品	●	●
プラスチック類	飲み残し水	●	●
	プラスチック（汚れない）	●	●
	プラスチック（汚れあり）	●	●
	発泡スチロール（汚れない）	●	●
ガラス・陶磁器・金属類	ペットボトル（ラベル・キャップはプラに分別）	●	●
	透明びん	●	●
ガラス・陶磁器・金属類	色付きびん	●	●
	ガラス・陶磁器くず	●	—

廃棄物の種類	分別区分	協会・出展者	会場者
金属くず	飲食用缶	●	●
	業務用缶	●	—
	スプレー缶	●	—
小型家電	金属（鉄・非鉄金属）	●	—
	小型家電	●	—
電池	アルカリ・マンガン電池	●	—
	充電電池	●	—
廃油	食用油	●	—
	潤滑油	●	—
	エンジンオイル	●	—
汚泥	その他廃油	●	—
	汚泥	●	—
植物	植物	●	—
	木材	●	—
木くず	木製パレット	●	—
	古布	●	—
特別管理産業廃棄物（資源性、燃焼性産業廃棄物）	特別管理産業廃棄物（資源性、燃焼性産業廃棄物）	●	—
	資源性産業廃棄物（燃焼性産業廃棄物）	●	—
—		36分別	9分別

「資源循環の考え方」では、GREENサーキュラー建築の推進や廃棄物の分別区分方針等について公表

4. 持続可能性優先事項③生態系・環境（1/4）

掲載コンテンツ（初期案）

■ 環境影響評価を踏まえた配慮事項の推進 具体例

- ・ 生物多様性に配慮した会場整備【実施中】

■ GREEN×EXPO 2027としての企画・ コンテンツ関連の取組

具体例

- ・ テーマ館における取組・展示【検討中】
- ・ 「次世代につなぐ叡智の集結」企画【検討中】 ※次ページ以降参照



“命の根源”である植物。その真の姿に迫るテーマ館では、“地球環境の一部としていかに生きていくか”をリアルとデジタルで体験できる。

※掲載画像はイメージです

「コンセプトブック」では、植物の世界を五感で感じ取る仕掛けを用意と発信

「2025年版パンフレット」でも、リアルとデジタルで植物の世界を体験できるとアピール

1) 次世代につなぐ叡智とアクションを集結

「グリーンのちから宣言」（仮称）プロジェクト

目的

- 生物多様性の価値を認知し、その維持・復元・再生への取組み、そして、**生態系機能を活用した社会経済課題への取組みを加速化させるために、叡智とアクションを集結。**
- ポストSDGsの時代にむけ、グリーンのちから宣言として世界に発信。

宣言の四本柱（仮）

自然のちから・価値の見える化と活用

宇宙衛星等による観測技術、科学的評価手法の普及、TNFDとの連携による情報開示の促進。

見えない価値の認知と活用

自然が人間にもたらす価値の認知（里地里山、文化・レクリエーションを通したウェルビーイング等）とその持続的な保全と活用促進。

イノベーション促進とインパクト投資の拡大

自然機能の活用（特に防災に資するEcoDRRや適応対策の加速化）とともに、インパクト投資とリスク管理の促進により社会のレジリエンスを高める。

産学官連携・市民参加

技術、金融、社会経済のつながり強化。市民参加（持続可能な開発のための教育促進）の促進。

2) 取組方針と内容

今をつなげる、展開する、次世代へつなげる。

GREEN×EXPO 2027開催前からの「知の集結」、開催、開催後のレガシーの継承を目指す。

今をつなげる

- ・ 課題や取組事例、技術を共有する場*1をつなげ、つくる
- ・ 「知識や経験の共有を通じた対話」と「ビジネス醸成」の議論
- ・ 主催フォーラムや既存の国内外の会議で宣言へ参画募集

次世代へつなげる

- ・ ポストSDGsへのメッセージとして宣言を発信*2

展開する

- ・ EXPOコンペティションで国内外の優良事例を発信
- ・ EXPO催事イベントで対話・議論、宣言案を考察

参考：*1: Home | J-GBF ネイチャーポジティブ宣言、green-infra-web、エッセンスフォーラム2024、<https://www.i-ise.com/jp/information/press/2025/20250604.html>、東北大学COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点

*2: *いのち会議 - 「いのち会議」とは、「いのち」とは何か、「輝く」とはどういうことか、「誰一人取り残さない」ために何をなすべきかを、あらゆる境を越えて考え、話し合い、それぞれが行動に移す場です。

3）主な活動

【2025年度】アクションスタート

- 大阪・関西万博を引き継ぐGREEN×EXPOとして、新聞社と連携したPR
- ブラジル気候変動枠組み条約COPにおいて公表（11月）
- 協会主催アカデミアシンポジウムにおいてキックオフ（11月）
- 催事公募のテーマウィーク企画としてシンポジウム等募集開始
- 環境（環共）市民としてのボランティアの募集開始
- 市民活動拠点参加者募集

4. 持続可能性優先事項④人権・D&I・アクセシビリティ (1/4)

掲載コンテンツ（初期案）

- 会場計画へのユニバーサルデザインの導入
- 「2027年国際園芸博覧会アクセシビリティ・ガイドライン」に沿った、対応推進・検討状況
具体例
 - ・ 第70回日本身体障害者福祉大会かながわ大会：当事者参画の取組を発表【実施済み】
 - ・ アクセシビリティ実装計画（内部向けの指針）の策定【実施中】



2 ガイドラインの活用にあたって

2.1 ガイドラインの適用範囲

本博覧会会場のうち、全ての来場者の動線・活動エリアをガイドラインの適用範囲として定めました。管理エリア（バックヤード）は、本ガイドラインを参考に配慮することが望ましいこととしています。

また、「5 交通アクセス」においては、会場へアクセスする主要な交通機関の開通施設（駅、駅前広場、ターミナル、駐車場等）と移動員（乗降等）、歩道等を対象としています。

2.2 基準設定の考え方

本博覧会開催において特に推奨する基準として「推奨基準」を定めました。また、少なくとも遵守すべき基準として「標準基準」を定めました。「推奨基準」を「☆」、「標準基準」を「■」で示しています。

やむを得ず部分的に標準基準を満たせない場合においても、主な関係法令を遵守し、かつ、人的対応やその他のソフト対策など代替手段の提供を行うことにより、標準基準により整備されている場合と同等のサービスを来場者に提供する必要があります。

様々な事情がある人も、ほかの来場者と同様に本博覧会を楽しむことができるよう、基準とそれぞれの場面ににおける対応策（例）を示しています。対応策（例）は、ひとつの方向性を示したものであり、むしろ、各主体が創意工夫をすることで、対応策（例）以上のより良いサービスの提供を目指すことが求められます。

2.3 基本寸法等

車いす使用者や杖使用者等の移動特性を踏まえた基本的な寸法を示しました。

2.4 法遵守等

本博覧会の運営、施設の計画、設計、建設及び整備に当たって遵守する日本の法令及び横浜市の条例等を示しました。

基準設定の考え方

☆ 推奨基準

「することが望ましい」事項を示し、安全かつ円滑な移動等の実現とともに、来場者の利便性の向上や快適な利用ができるように備えるために、本博覧会開催において特に推奨する基準として定義する。

■ 標準基準

「～しなければならない」「～すること。」の事項を示しており、法的拘束力の有無にかかわらず、少なくとも遵守すべき基準として定義する。

「3 施設整備」の全体構成

施設整備は、「共用空間」、「庭園」、「建築物」の別に基準を示し、全体に共通する事項を「共通」でまとめています。

3 施設整備			
共用空間	建築物		
3.1 会場内道路	3.9 敷地内道路（屋外）	3.18 客席	
3.2 階段	3.10 出入口	3.19 飲食・物販エリア（カフェテリア、レストラン、物販店等）	
3.3 傾斜路	3.11 廊下等（屋内）	3.20 ベビーケアルーム	
3.4 会場エントランス空間	3.12 階段	3.21 祈祷室	
3.5 案内所	3.13 傾斜路	3.22 造作設備（手すり・カウンター・自動販売機等）	
	3.14 エレベーター	3.23 内装等（内装・備品・その他の配慮）	
	3.15 エスカレーター	3.24 避難設備等	
	3.16 段差解消機		
	3.17 便所		
共通			
3.25 表示・サイン			
3.26 視覚障がい者誘導用ブロック等			
3.27 カームダウン・クールダウンスペース/センサリースペース等			
3.28 待ち行列エリア			
3.29 補助犬トイレ			

「アクセシビリティ・ガイドライン」では、ガイドライン検討会の結果を踏まえ、29の施設別にアクセシビリティ基準を策定

趣旨

当事者参加により、社会モデルを前提として策定し、GREEN×EXPO2027を訪れるすべての人々が、安全・快適に過ごすことができるよう配慮した整備・運営を行うことを目的として策定した

「アクセシビリティ・ガイドライン」 (2025年3月)

- ・ 国際的な水準でのアクセシブルな環境整備の実現を目指す
- ・ 障がい当事者や学識経験者等の皆様に参画いただき、様々な意見を反映する
- ・ EXPOのレガシーとして、誰もが取り残されない共生社会の実現につながる

取組の根底に「当事者の声を反映することの重要性」

4. 持続可能性優先事項④人権・D&I・アクセシビリティ (3/4)

アクセシビリティ・ガイドライン検討会の委員は、当事者団体等からも参加

■アクセシビリティ・ガイドライン検討会 開催経緯



第1回検討会 (2024年9月12日)

- 2027年国際園芸博覧会について
- アクセシビリティ・ガイドラインの策定について
 - ・アクセシビリティ・ガイドライン検討会
 - ・アクセシビリティ・ガイドラインの考え方
 - ・アクセシビリティ・ガイドラインの目次構成 (案)

第2回検討会 (2024年11月29日)

- 第1回検討会、第1回ワーキングの振り返りと意見について
- アクセシビリティ・ガイドライン (素案) の第1・2章の検討状況について
- 第3～5章 特に今回ご意見をいただきたい事項について
- 今後のスケジュール

学識者・協会関係者意見交換会 (2025年2月3日)

第3回検討会 (2025年2月21日)

- 第2回検討会、第2回ワーキングの振り返りと意見について
- アクセシビリティ・ガイドライン案について

第1回テーマ別ワーキング (2024年10月8日)

- 以下の内容について意見交換
 - ・移動・誘導
 - ・展示の楽しみ方
 - ・コミュニケーション (心のバリアフリーを含む)

先進事例視察 (2024年12月12日) ※協会職員

- 東京国際空港 (羽田空港) 第3ターミナルUD視察会

第2回テーマ別ワーキング (2024年12月20日)

- アクセシビリティ・ガイドライン (素案) 第3～5章について議論

2027年国際園芸博覧会 アクセシビリティ・ガイドライン検討会 委員名簿

(敬称略、順不同)

■委員

【学識経験者】

秋山 哲男 (委員長)	中央大学 研究開発機構 機構教授
大森 宣暁	宇都宮大学 地域デザイン科学部 教授
丹羽 菜生	中央大学 研究開発機構 機構准教授

【当事者団体等】

小淵 健一	関東ろう連盟 福祉対策部長
度会 哲賢	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 常任理事
中川 孝子	神奈川県手をつなぐ育成会 会長
名古屋 恒彦	公益社団法人 日本発達障害連盟 副会長
大藪 定信	公益財団法人 全国老人クラブ連合会 政策委員会 幹事
木太 直人	公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 常務理事
板橋 光雄	神奈川県視覚障害者の生活と権利を守る会 執行委員 (一般社団法人 全日本視覚障害者協議会より推薦)
荻津 和良	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 副会長
山崎 涼子	特定非営利活動法人 自立生活センター・小平
工藤 登志子	認定NPO法人 DPI日本会議 バリアフリー部会長補佐
武者 廣平	特定非営利活動法人カラーユニバーサルデザイン機構 理事長
光延 卓真	神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会 会長
白石 幸男	横浜市脳性マヒ者協会 会長 (公益社団法人 横浜市身体障害者団体連合会)
山根 則子	横浜市オストミー協会 会長 (公益社団法人 横浜市身体障害者団体連合会)
高橋 愛	一般社団法人 ラシク045

2025年3月26日 アクセシビリティ・ガイドライン発出

4. 持続可能性優先事項④人権・D&I・アクセシビリティ (4/4)

2025年6月3～4日 大阪・関西万博を視察 現場で学ぶ



三星昭宏先生と具体的な事例を確認
(近畿大学名誉教授、
大阪・関西万博ユニバーサルデザイン検討会会長)



車いすユーザー、視覚障がいをお持ちの方と会場内目的地まで

2. GREEN×EXPO 2027におけるESMS構築の必要性①

公表資料「サステナビリティ実施計画」にて、AIPHの12の要求の一つである「サステナブルなイベント運営」のアクションとして、ESMSの構築及びISO20121の認証取得を既に明記

11 サステナブルなイベント運営			
食品ロスの削減の推進	食品ロスの削減の推進 ※一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店	11-1-1	ガイドラインの策定・公表
		11-1-2	関係者への周知
		11-1-3	計画の運用・結果取りまとめ
テーマに沿った、音・光のコントロール	テーマに沿った、音・光のコントロール ※一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店、催事参加	11-2-1	ガイドラインの策定・公表
		11-2-2	関係者への周知
		11-2-3	計画の運用・結果取りまとめ
ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	11-3-1	ESMS の導入に向けた検討
		11-3-2	ISO20121 の審査機関からの認証取得
		11-3-3	ISO20121 の運用

2. GREEN × EXPO 2027におけるESMS構築の必要性②

公表資料「AIPH規則等（サステナビリティ関係）の要求事項と対応の方向性について」においても、ESMSの構築を対応方向性の要素の一つとしている

AIPH規則等における要求事項の概要②

分類	要求事項	要求事項の概要
運用	ISO20121※1に準拠したイベント・サステナビリティマネジメントシステムの構築	- 持続可能な博覧会を実現するためのマネジメントシステムの構築 - 国際標準規格であるISO20121の認証取得（推奨）
報告	①プレイイベント・サステナビリティレポートの策定	建設工事と準備段階に焦点をあてた報告書
	②ポストイベント・サステナビリティレポートの策定	博覧会最終報告書及び評価アンケート1の一部となる報告書（気候変動対策、生物多様性の保全、持続可能な調達と資源管理、公平性とインクルージョン、サステナビリティ教育と意識向上等）
	③サステナビリティ及びレガシーレポートの策定	博覧会評価アンケート2の一部となる報告書（気候変動対策、生物多様性の保全等）

3. 大阪・関西万博におけるESMS構築・認証取得

大阪・関西万博では、イベントの開催がSDGsの達成に貢献する姿勢を世界に示すためにISO20121認証を主要イベント及び関連イベントの適用範囲で取得

対象イベント	大阪・関西万博
イベント開催時期	2025年 4月13日～10月13日
ISO認証取得時期	2024年8月13日
ISO認証取得目的	ESMSを活用し、継続的な改善を行うことにより、イベント運営における環境、経済、社会へのプラスの影響を増大、マイナスの影響を低減させるため

持続可能な大阪・関西万博開催にむけた行動計画について

(行動計画について)

持続可能性への取組はESMS（Event Sustainability Management System、イベントの持続可能性マネジメントシステム）に基づき行う。ISO20121に基づいたESMSでは、

- ①博覧会協会が取り組むべき重要課題と目標を設定し、
- ②各実施主体（部署）が責任をもって取り組む持続可能性の計画を定めて実行し、
- ③取組成果の監視及び評価並びに内部・外部監査、組織のトップによるマネジメントレビューを実施するとともに、
- ④ステークホルダー向けに定期的な報告を行う

というマネジメントシステムを構築する。

ESMSは2023年度から導入し、2024年度にはISO20121の認証を受けている。

2023年3月から、その準備段階として、①②③についての議論、計画の全体像をお示しし、④ステークホルダーへの定期的な報告を行うものとして、行動計画(第1版,第2版,開催前報告書)を毎年公表。

本報告書については、第1版、第2版と同様に公表後一般に意見募集を行う。

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

2

4. 認証関連スケジュール

2026年2月～3月の審査実施によりISO20121の認証を取得し、2027年会期中に維持審査を実施予定

